

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102483		
法人名	社会福祉法人岐協福祉会 大洞岐協苑		
事業所名	グループホーム 大洞岐協苑		
所在地	岐阜県岐阜市大洞3丁目3番1号		
自己評価作成日	平成25年8月23日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JievosyoCd=2170102483-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JievosyoCd=2170102483-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成25年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で生活をして頂く。月1回のミニドライブにて外出もあり行事等も色々あります。「利用者の主体性を活かす」「円滑な共同生活を工夫する」の理念に基づき、利用者の能力を活かし、自身でできる事は自身ですて頂き、出来ないところを支える介護の提供に努めている。自然豊かな環境を活かし、毎朝の散歩の実施。お花の手入れをすることで、外気に触れる機会を作り、季節感を肌で感じて頂いている。近隣の幼稚園との交流やふれあいサロンへの参加など地域交流にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は緑豊かな自然に囲まれた静かな環境の中にあり、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービス等関連施設が隣接している。利用者は比較的症状が安定している女性が多く、長期の利用者が多い。職員の利用者に対する言葉かけは言うに及ばず、利用者同士の会話にも温かさを感じられ、利用者同士助け合って生活している様子を感じ取れた。職員が利用者一人ひとりを理解し、自主性を尊重して見守る支援を実践していることで、あたかもひとつ屋根の下で暮らす家族のような印象を受けた。共用空間の食堂兼リビングルームには少し高く設計された畳の間がうまく配置され、ゆったりとくつろぐことができる空間となっている。事業所の運営方針でもある家庭的で落ち着いた雰囲気があふれている。日常の散歩や事業所独自に行われているサークル活動や行事の他、併設施設とともに実施されている運動会、文化祭等利用者参加の機会も多く、利用者の生活を生き生きとしたものになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを重視して月1回「ふれあいサロン」へ参加させて頂いている。	「利用者の主体性を生かす」、「円滑な共同生活を工夫する」を事業所の基本理念として地域との関係を重視して身体機能を低下させないように努めている。たとえば地域との交流を深めていただくために、月2回「ふれあいサロン」に参加してもらうよう促している。	理念について事業所全体で会議での検討や朝礼での読み上げ等具体的な取り組みを通して、職員の意識化に努められたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの幼稚園との交流がある。行事等にも参加させて頂いている。地域の夏祭り、ふれあいサロンにも参加させて頂いている。	法人として自治会に加入している。毎朝散歩の際にすれ違った人と言葉を交わしたり、スーパーでの買い物の際の会話等を通して近隣との付き合いを大切にしている。また近くの幼稚園との交流が盛んで互いに行き来している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの大学より実習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では委員の方の意見を頂き、ホームでの会議等で報告し活かせるようにしている。	自治会代表、民生委員、幼稚園園長、地域包括支援センター、家族代表等の参加で会議が持たれている。今年度は職員の大規模異動があり、積極的な開催ができる体制に至っていない状況にある。	会議の開催の体制を整える等定期的な開催の実現に向けた取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前は利用者の方も参加して頂き情報をお伝えしていたが、最近では報告のみになっている。	毎月、市担当課に待機者の報告をしている。地域包括支援センターには事業所の現状について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で委員会を3ヶ月に1度開催している。ホーム内の出入り口にはセンサーを設置し、日中は施錠しない。利用者に危険が及ぶ時は家族の同意を得て施錠している。	法人全体で身体拘束をしないケアについての委員会を設け、定期的な会議を開催している。事業所の出入り口はセンサーを設置し、夜間のみ防犯のため施錠している。また窓からベランダに出られる等危険と判断される行為がある場合のみ家族の同意を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修等で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修等で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「契約書」等は、口頭にて説明し、質問を受け同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の際は声を掛けてコミュニケーションに努めている。	意見箱を設置したり、家族会等で意見を表明できる機会を設けている。また日頃、家族の面会時には要望や意見を伺うよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ケア会議があり、意見を出し合い、より良いケア等を摸索している。議事録があり、欠席者にもわかるようにしている。	毎月、同一建物内のケアハウスと合同のケア会議があり、出席者には順番に意見を言ってもらよう働きかけたり、発言しやすい雰囲気作りに努めている。また参加できない職員には書面で伝えたり、意見を聞く機会を設けたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長による「個別面談」があり意見を直接言える環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回苑内研修がある。参加後は報告書を提出を行っている。外部研修も順次受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会、第1支部会や外部研修への参加がある。他のグループホームの方の話を伺い、情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、ケアマネジャーと交互に家族と本人と別々に話を伺っている。不安なことや要望を伺い、職員で共有し、安心していただけるような関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同様 ケアマネージャと交互に話をする時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム以外のケアマネジャー連携し相談の内容に応じた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、料理作りなどを通して共同作業の充実を図っている。ご本人のできることはしていただき、できない所を支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、手紙で担当者が状況報告している。また行事の案内をし、参加を促している。家族の面会時必ず声を掛けて現在の状況を報告している。受診は家族に依頼し健康状態の確認を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけだった地域の喫茶店へ行ったり、デイサービス利用者に馴染みの方が見えると会話をされています。	毎月、馴染みの喫茶店に行くことができるよう支援をしたり、知り合いの方が法人内のサービスを利用されている場合、連絡が入り、一緒に過ごすことができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は、会話が楽しめるように座っていただく配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設された特養に移られた職員や利用者やと会われた時に声掛けをするように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活をして頂くために、支援をさせて頂く様考えている。	利用者への声かけを常に積極的に行う等思いの傾聴に心がけ、その人の希望や意向の把握に努めている。また耳の遠い人には耳元で囁くなど工夫をして、ゆっくりとわかりやすく話すよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族との会話の中から更に情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調の変化、特変などはスタッフ全員に分かるように日誌申し送りノート・ADLに記入して毎日目を通して。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが家族や利用者に直接意向を尋ねている。会議の中で意向を確認し、モニタリングを行いまとめている。	本人、家族の希望を聞いた上で、ケア会議でケアマネージャーと担当職員を中心に職員間で話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の健康状態や特変等をADL記録ノートに記入しスタッフ共有の情報としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に受診は家族対応だが急変時、家族の都合上やむを得ない時は救急搬送行い、スタッフ付添い病院で家族対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の「ふれあいサロン」への参加。ボランティアによるお菓子作り、絵手紙サークルがある。近くの幼稚園との交流もある。月1回ミニドライブも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけ医の受診となっている。身体的に変化があれば、情報を提供している。	馴染みのかかりつけ医に家族同行で受診してもらっている。緊急の場合等、事業所から直接医療機関に搬送した場合などは家族に受診結果について情報を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は特養と兼務であるが利用者の体調に変化が見られた時、内線にて報告し、対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は家族に情報提供をお願いをしている。退院時には担当看護師・ケースワーカー・家族・ケアマネ・事業責任者でカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに関しては今後も未定である。退去基準(常時車椅子生活等)を契約書等に記載し契約時や面会時にお伝えしている。	利用者の介護度の状況に応じて利用できる複数の施設展開をしている法人なので、重度化した場合や終末期ケアについては、同法人内の別の施設を利用していただくか他の施設を紹介する等、利用の際に家族に説明をし、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修として地元の消防署で救命救急AED使用方法の講習を受けている。酸素ポンペは毎週・日曜日の夜勤者が確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回・消防署の立ち寄り検査がある。避難訓練もある。	夜間想定避難訓練も行っている。運営推進会議において地域自治会の防災訓練に参加してはどうかとの提案があり、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話や言葉使いの声の大きさに気おつけている。排泄の援助も寄り添った対応に心掛けている。	声の大きさやトーンに気をつけながら、言葉がけをしている。一人ひとりの行動を見守りながら自主性を尊重し、無理強いせず、一人ひとりに合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム・おやつ時間は飲み物等選択してもらっている。余暇時間、ぬり絵等して頂く時選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は体調に合わせた援助を行っている。入浴は1日おき又は2日おきに入れるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容師が来苑されカット又は希望者には毛染めもされている。朝夕の顔拭きの後に化粧水も塗ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食作り(皮むき・食材切り)を利用者と一緒に行い、一緒にテーブルで食べている。	できること(食材を切ったり、皮をむいたり、テーブルを拭く)をやっていただきながら、昼食と夕食と一緒に調理している。献立は利用者の意見を取り入れながら2~3日前に決めて食材を購入している。食事前には嚥下体操を行い、食事中は音楽が流れ、楽しく食事ができるような雰囲気づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を記録(必要に応じ個別に水分量も)月1回の体重測定・特養の管理栄養士によるBMI表の作成や助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼夕食後、義歯や歯磨きの声掛けや介助を行っている。就寝前は義歯を預かり洗浄剤による消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方はご自身でトイレを使用されていますが、日中トイレ・夜間ポータブルトイレ誘導。個人に合わせて行っている。また紙パンツ・パットも尿量に応じて対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、自立を促す取り組みを行っている。その成果としてご自分でトイレに行かれるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ビデオ体操や散歩を行い、機能訓練室では音楽に合わせて体を動かすように働きかけている。便秘で希望の方には牛乳を飲んでもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴介助を行っている。体調に考慮しながら、入浴してもらったり、沐浴になったりする事もある。	1～2日おきに入浴していただいている。無理強いをせず、入浴したい時に入ってもらっている。入浴中は職員と1対1になるので、普段話することができない話を話してもらえる機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	しっかり休んで頂ける様に、日中の運動・散歩・就寝前にカフェインを取らない様に援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の服薬はADL記録表ノートで「服薬介助者・時間」をチェックしている。体調の変化や薬に関しては直接かかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りの際「皮むき」「食材切り」等全員で分担している。一人ひとりの「得意・不得意」を把握し余暇活動やサークルの参加も配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のドライブには全員参加で「道の駅平成・花フェスタ・うかいミュージアム・芋ヶ瀬池」買い物・モーニング・ランチ・散歩等、臨機応変実施している。	外出の機会が多く、ミニドライブで様々な観光施設に出かけている。散歩は毎日事業所周辺を歩き、お昼の夕食には順番に行っていたい。今年は同法人の他施設の旅行に希望者は家族同行で参加していただくこととなった。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方よりおこずかいを、お預りしている。必要に応じて使用されている。心細い方は家族の理解を得て少額の金銭を所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の際は、その都度付き添い介助している。絵手紙サークルで描かれた物を年賀状として家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入ると、目の前の大きな窓から、緑の山々が目に飛び込んでくる。季節により、ひな飾り・七夕飾り・クリスマスツリー等の行事風習を大切に行っている。	食堂にはテーブル2台とリビングにはテレビがある。また、腰をかけたり、上がってくつろぐことができる畳の間が使いやすいように配置され、横になったり、会話を楽しんだり、フットセラピーが行われる等憩いの場となっている。整理整頓され、落ち着くことができる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1ユニットなので居室や食堂の空間から、穏やかな声が聞こえる。居室で休まれている方も食堂まで出て見え、テレビを見られる方・おしゃべりされる方の姿も見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真等を置かれている方もある。	馴染みのある小物、写真、テーブルクロス等が置かれ、布団、カバー等も自分の使用していた物を持ってきている。入口には職員手作りの布の暖簾が掛けられ、温かみを感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり設置・杖・シルバーカー・歩行器・手つなぎ介助レベルに合わせた介助行っている。体調や歩行困難の時は車椅子も必要に応じ使用し介助にあたっている。		